(月刊)　昭和二十一年八月十日　(毎月一回十日発行)　神戸大學新聞　第二号　(一)

神戸大學新聞

神戸大學新聞社
昭和二十一年八月十日
(毎月一回十日発行)
第二号
(一)

學生の自由とは

思辯の自由より實踐の自由へ

塚本 虎二

特輯 大學・學生

論說

學園結集の急務

丘の子に與ふ

三木 清

たゞひとすぢの みちもとめゆけ

ざの・かづひこ

座談會 私達はかう思ふ

社會は斯く答へる

一、學生自治運動をどう思ふか。
二、現代の學生に何を期待するか。
三、學生如何に學ぶべきか。

I會社重役

J外人教師

H醫博士

負債脱ぐべきか

學生面實の必然性

社會にのぞむ

PHILHARMONY
学生文化の
鑑賞機関として
福田新薬
共同ビル裏
神戸美商会興業部

SHIONO
シオノの榮養失調予防剤
甘いゼリー狀
ゼミオン
新發賣品　25g　12·66　市内有名藥局ニ有リ

文學ノート

生島遼一

○

「この人には讀書慾がある」とかいう言い方があるが、これもその一つ。多分讀書も書くことが上手だというのであろうが、上手な文章とはどういう文章か、簡潔で書き方に型のない文章が一番自由に書けるのだが、いわゆる文章とは型があり作用に制約されることが多い。そこでアンドレ・ジッドは有名なストエテルに関する論文に於て、「散文とは一切すべての条件と共に讀書、人間の考え方、感覚は離れて独立した文章の仕事をしている人間の文章である」と言っている。なるほど文章には型がない。

この前記の論文の中でジッドは自分の今後の場合と、どう関聯するだろうか。

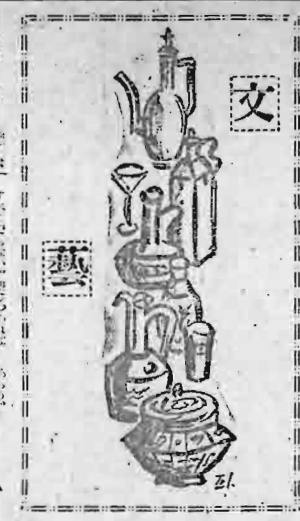
小説ジャンルの問題は、フランスに於ては、「文学」の初めから、「文学」の中心問題であった。ロマンとは小説のことであり、ロマンティックとは小説的なことであった。

フランスの小説のうちでも、ジッドは「ドストエフスキー」や「贋金つかい」の様な小説を書いたが、「文学」の初めから、「文学」の中心問題であった。

かりに、あの人に「贋金つかい」を書かせたら、これも従来の小説とは違ったものになるであろう。

フランスの小説のうちでも、ジッドは「ドストエフスキー」や「贋金つかい」の様な小説を書いたが、「文学」の初めから、「文学」の中心問題であった。

かりに、あの人に「贋金つかい」を書かせたら、これも従来の小説とは違ったものになるであろう。



窓を開く文學

高安國世

短夜　播水

衣更へぬ机邊片づけんとぞ思ふ
ゆき過ぎし帆は皆白し初夏の海
一基の紫陽花植ゑし墓木兎
短夜や讃美合の潮じめり
夜を讃めば鳴くなり青葉木兎
紫陽花や夫人の書室淨らかに
客遠る灯に紫陽花の俤淨ふ
四山いま雨霧に浮ゆ夏館
梅雨の山覗れる隣にひとり待つ

眞理、調和、無私

顯原退藏

涼風寸訪

奥生演劇に望むもの

研究所から
國民經濟調査會
研究所から
古書專門
誠實
藤本書店

時の經濟

インフレ問題の歸趨

田中金司

我かる規準は何ぞや

教員適格審査委員會

本學にも開かる

大地に根ざす文化結集へ

縣下學藝新發足

アメリカ經濟講座

經濟學門合格者發表

豫科夏期文化講座

運動精神の高揚性

文化部に望む

生活と闘ふ

就職について

FREE-NOTE

新藥 コメット
結核性疾患治療及豫防劑
ネオハツモン
百日咳特効新劑
コヒナゲン
黒田製藥株式會社

腸カタルに
ビオフェルミン
本社賞賣
各種ワクチン
チブス・コレラ・赤痢
疫痢・猩紅熱其他各種

菓子製造卸小賣
喫茶部營業
中華公司ベーカリ

英文名著選集
英語短文集